

公表

2024年度ひかりぐみ 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ひかりぐみ		
○保護者評価実施期間	2025 年 1 月 20 日 ～ 2025 年 2 月 7 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21 (回答者数)	16
○従業者評価実施期間	2025 年 1 月 20 日 ～ 2025 年 2 月 7 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025 年 2 月 12 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こども園の中にある	子ども同士が、遊びや生活のモデルから刺激を受けることができるよう、お互いの遊びが見える場所で活動したり、こどもの興味に応じてクラスの活動に参加している	引き続き、職員同士の理解、連携を図り、こどもたちが自然に関わり、あたたかい交流ができるよう支援していく
2	園庭がある	毎日広い園庭で全身を使って、心ゆくまで遊べる時間を保障している こども園の子どもたちの遊びに憧れ、その場で挑戦できる環境がある	ひかりぐみの保護者もこども園の保護者や職員と一緒に、園庭整備の作業等を通して広く地域で繋がりがえる機会を作っていく
3	常勤セラピストがいる	常勤の言語聴覚士や非常勤の理学療法士がひかりぐみの療育に日常的に関わることで専門的なアドバイスが気軽に受けられる	職員間の子ども理解の共有をさらに充実させ、きめ細かい支援につなげる

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	発信が弱く、療育の意図を保護者に伝えきれていない	子ども自身が、遊びから学び育つという支援方針が、わかりづらい	親子通所や、写真などを通じて支援者が直接伝える機会を増やすことで、お子さんの成長に繋がっている支援を実感できるようにする
2	保護者同士のつながりを支援することが不十分	保護者の個々の状況に応じた支援ができていない	保護者同士が関わり合い、育ちあえる場を作れるように検討する
3			